



## ～ パパ・ママの「子どもとのあそび」に関する調査 ～

**5割が、自身の子どもの時代と比べて「休日に子どもと遊ぶパパが増えた」  
一方で、86.9%のママは「もっと遊んでほしい」と回答**

子どもの健やかな成長に「あそび」を通して貢献することを目指し、教育玩具・遊具の輸入・開発・販売とあそび場づくりを行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、4月中旬に、保育園児・幼稚園児を長子に持つ全国のパパ・ママ 1,287人を対象に、「子どもとのあそび」についてインターネット調査を実施しました。

当社では、5月5日の「こどもの日」を、子どもの健やかな成長について考える日として、社会全体で子どものあそびや子育て環境を見直す契機にしたいという思いから、毎年調査を実施しています。

共働き世帯が増加する中、パパの育児参加も増えつつあります。そこで本調査では、「こどもの日」を前に、パパ・ママの「子どもとのあそび」における実態と意識を明らかにすることで、親子のあそびについて改めて考える機会を提供したいと考えています。

## 【 調査結果のポイント 】

## ■ 子どもとのあそびの実態

- 子どもと一緒に遊ぶ頻度は、ママは「毎日」(81.9%)、パパは「週に2～3回程度」(42.2%)がトップ
- 自身の子どもの時代と比べると、**50.0%が「パパが子どもと遊ぶ時間は『増えた』」**
- 一方で、**86.9%のママは、「パパにもっと子どもと遊んでほしい」と回答**

## ■ 子どもとのあそびの意識

- **パパの58.6%は、「仕事や家事で、配偶者の手が離せないときに子どもと遊んでいる」と回答。**一方、**ママの73.5%は、「仕事や家事で、自身の手が離せないときに、配偶者にもっと子どもと遊んでほしい」と回答。**パパ・ママの意識に、14.9ポイントの開きがある
- ママは、パパに子どもと「**運動遊び**」(87.2%)、「**自然に触れ合う遊び**」(54.2%)をしてほしい。その理由は、「**普段させてあげられていない遊びだから**」、「**配偶者の方が得意な領域の遊びだと思うから**」が過半数を占めた

## ■ 子どもとのあそびの悩み

- 子どもとのあそびに悩みを抱えるママ(79.3%)の割合は、パパ(59.3%)よりも**20ポイント高い**
- **ママの悩みの約7割が、「ながら遊び(家事をしながら・スマホやTVを見ながらの遊び)になっていること」**
- 60.6%のママが、パパと子どもとのあそびに不満を感じていた。その理由は「**ながら遊びになっていること**」がトップで、**ママ全体の47.9%に相当。**一方で、**ながら遊びについて悩みを抱えるパパは29.6%**と、パパ・ママの意識に18.3ポイントの開きがある

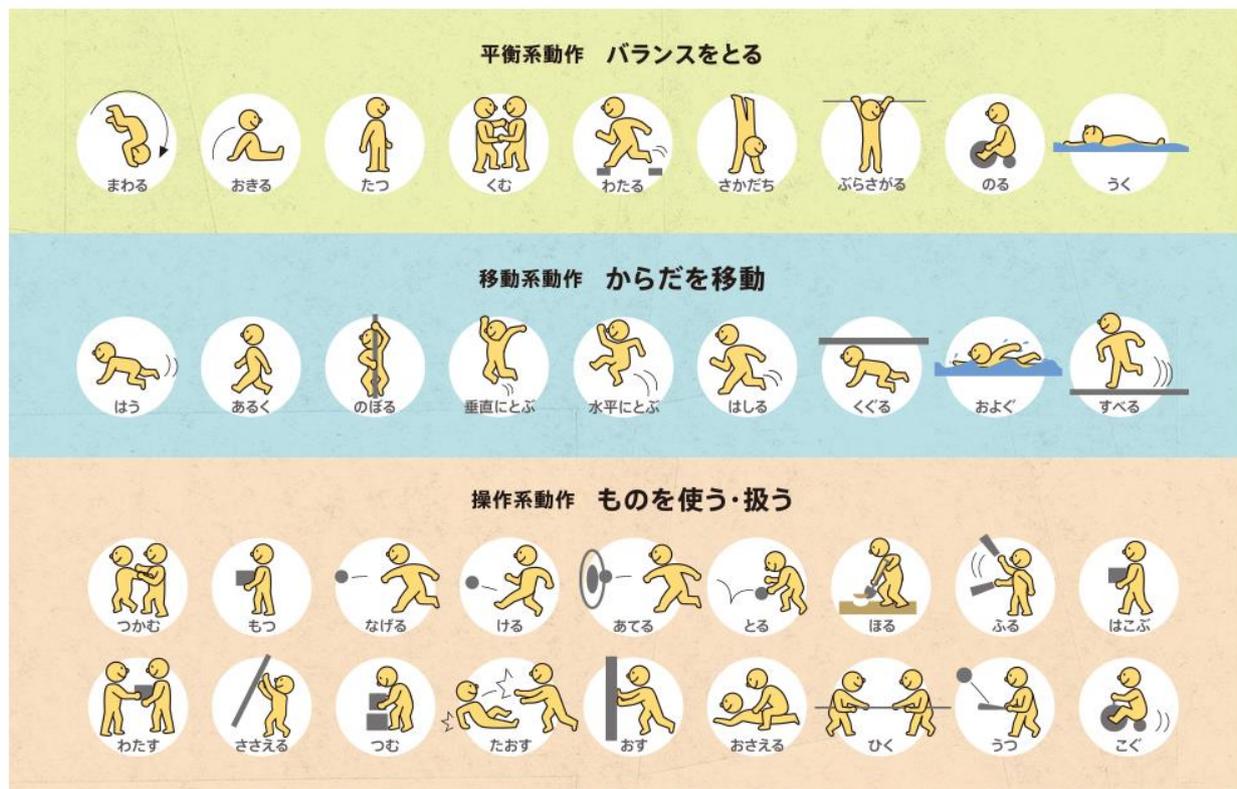
## ■ボーンレンドコメント

今回の調査から、パパもママも子どもと遊ぶ時間を大切に考え、子どもと遊んでいることに互いが感謝している様子がうかがえました。一方、子どもとのあそび方がわからないと悩む方も多いことがわかりました。

また、パパが子どもと遊ぶ機会は増えている一方、ママはもっと積極的に遊んでほしいと思っている実情がわかりました。中でも、ママがパパに求めているあそびは、「運動遊び」(87.2%)が多く、その理由も「普段させてあげられていない遊びだから」(55.4%)、次いで「自身よりも配偶者の方が得意な領域の遊びだと思うから」(53.4%)と、「パパと一緒にだからこそ」の、子どもがより楽しめるあそびが求められているようです。

パパが子どものあそびを選ぶ理由の1位は、「能力や感性を育てるのに役立つと思うから」(53.6%)でした。多様な身体の動かし方を、あそびを通して子どもに体験させることは、子どもの能力や感性を育む観点でも重要です。人間の体の動きは下図の36種類に分類され、幼児期にできるだけ多くの動きを経験し身につけることが望ましいとされています。なぜなら、運動に関係のある脳の神経系の発育は12歳までにほぼ100%に達し、この時期に身につけた動きは生涯消えることがないためです。これら36種類の動きの中で、「自分の子どもが普段行っていない動きはどれか」を考えてあそびを提案すると発達に有効です。

### 36の基本的な動き



加えて、パパ・ママとも、TV やスマホを見ながらの「ながら遊び」についての問題意識が高いことも明らかになりました。親が子どもの様子をよく見ながら、それに応じて声をかけたりなど働きかけをすることは、親子の絆を深めるだけでなく、子どもの自己肯定感を高めたり、社会性を身に付けることにもつながります。1日5分でもよいので、子どもと向き合い、集中して遊んでほしいと、当社は考えています。

一方、公園の規制・禁止事項の増加などによって、こうした「身体を動かすあそび」や「親子で向き合うあそび」ができるあそび環境が減少している背景があります。身近に、安心して安全に、そしてのびのびと自由に遊べるあそび場が整っていることは、子どもとのあそびの質をよりよいものにし、今回明らかになった種々のあそびの悩みを解決するためにも重要なことです。こうした現状を受け止め、行政とも協業しながら、あそび環境づくりを一層推進してまいります。

## 【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査

調査対象：幼稚園・保育園(年少・年中・年長)の子どもを長子に持つ、共働き家庭・専業主婦家庭の30代のパパ・ママ

有効回答数：子どもの年次に応じた以下12グループで、合計1,287サンプル

①年少・共働き家庭・パパ…106 サンプル      ②年少・専業主婦家庭・パパ…111 サンプル

③年中・共働き家庭・パパ…110 サンプル      ④年中・専業主婦家庭・パパ…108 サンプル

⑤年長・共働き家庭・パパ…111 サンプル      ⑥年長・専業主婦家庭・パパ…110 サンプル

⑦年少・共働き家庭・ママ…103 サンプル      ⑧年少・専業主婦家庭・ママ…105 サンプル

⑨年中・共働き家庭・ママ…100 サンプル      ⑩年中・専業主婦家庭・ママ…108 サンプル

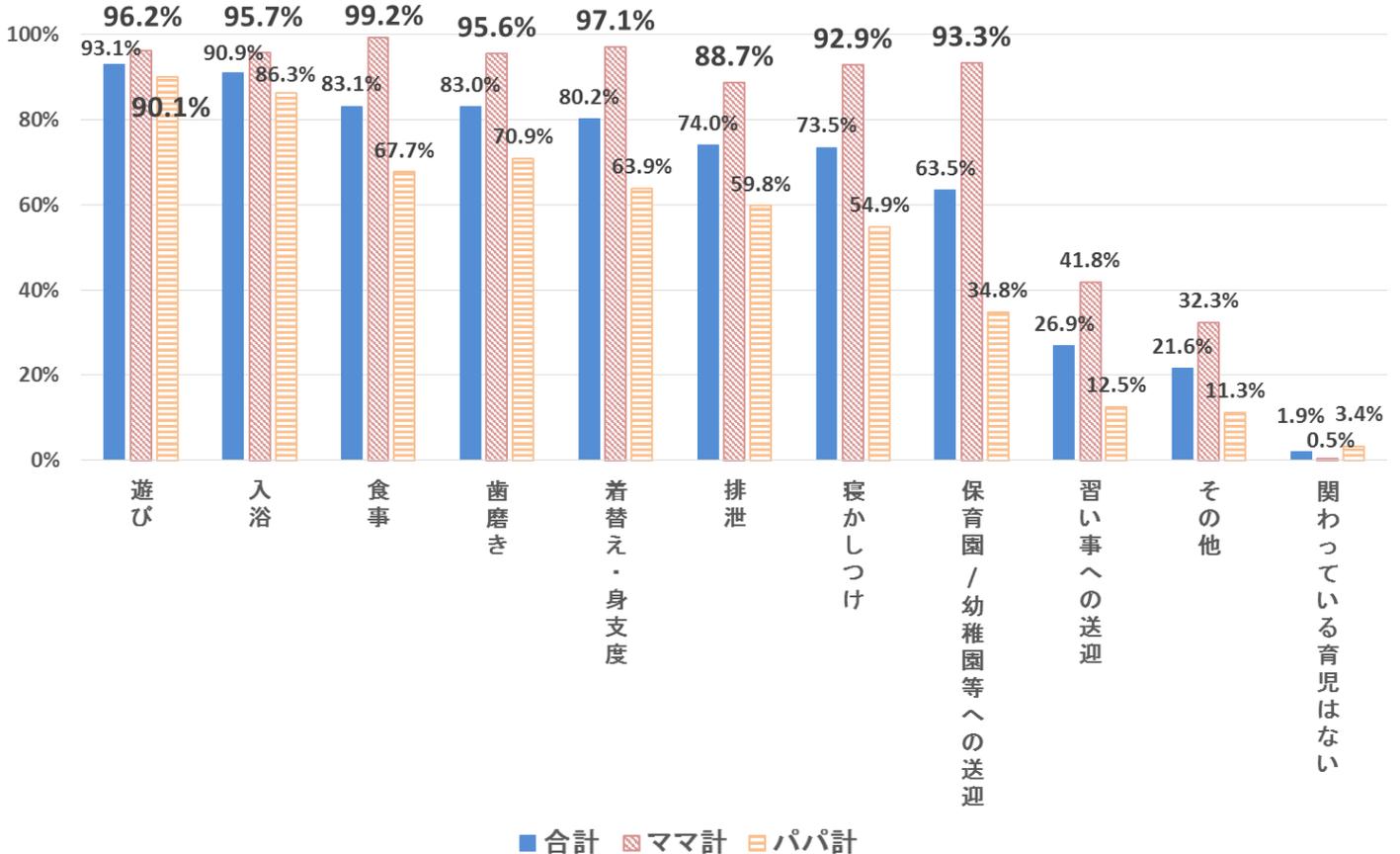
⑪年長・共働き家庭・ママ…111 サンプル      ⑫年長・専業主婦家庭・ママ…106 サンプル

調査時期：2019年4月2日～4月11日

【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が100にならない場合があります。

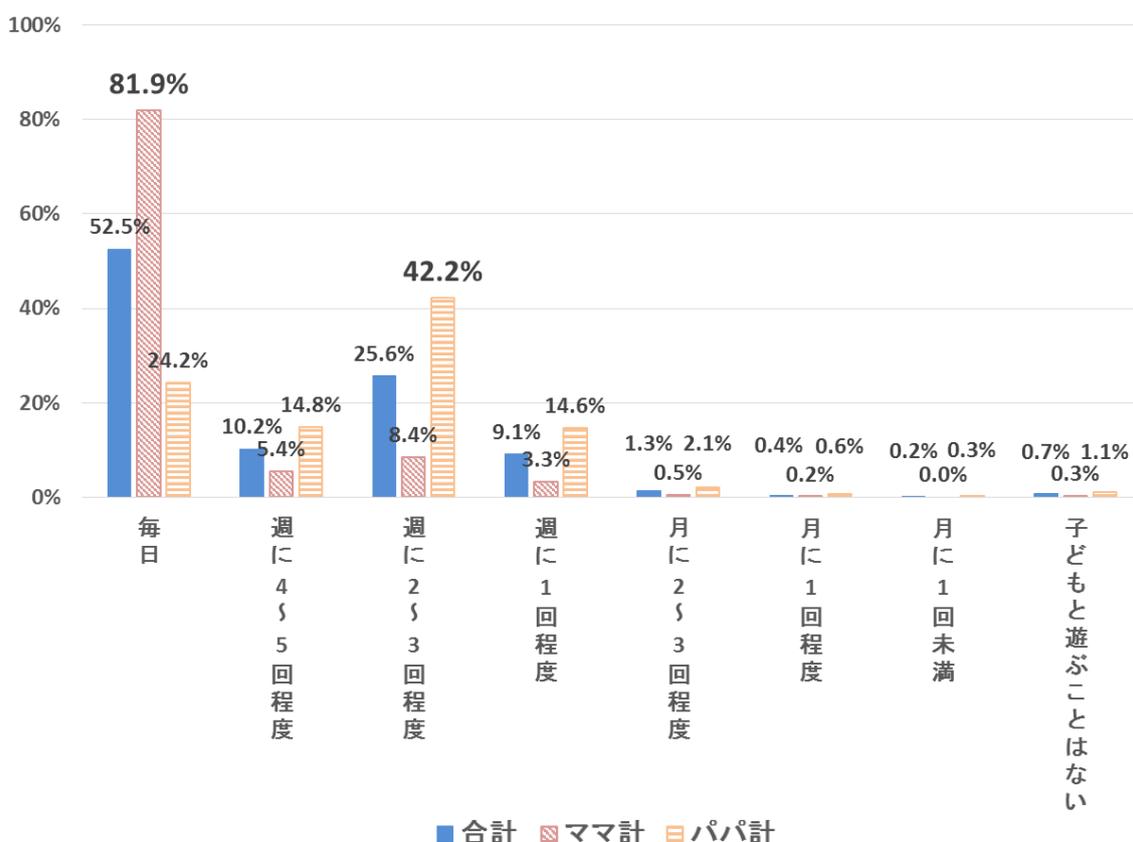
### パパ・ママの「子どもとのあそび」の実態

Q. あなたは普段、どのような育児に関わっていますか。



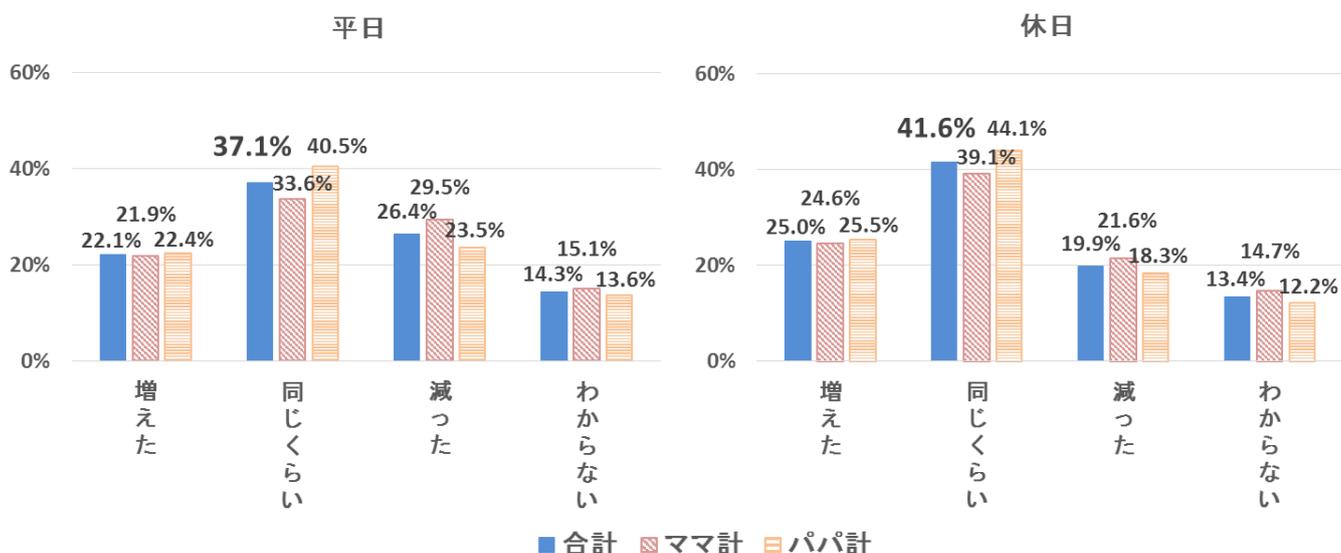
ママは育児全般に関わる傾向が見られました。また、約9割のパパが普段から子どもと一緒に遊んでいると回答しました。

Q. あなたが、子どもと一緒に遊ぶ機会はどれくらいありますか。



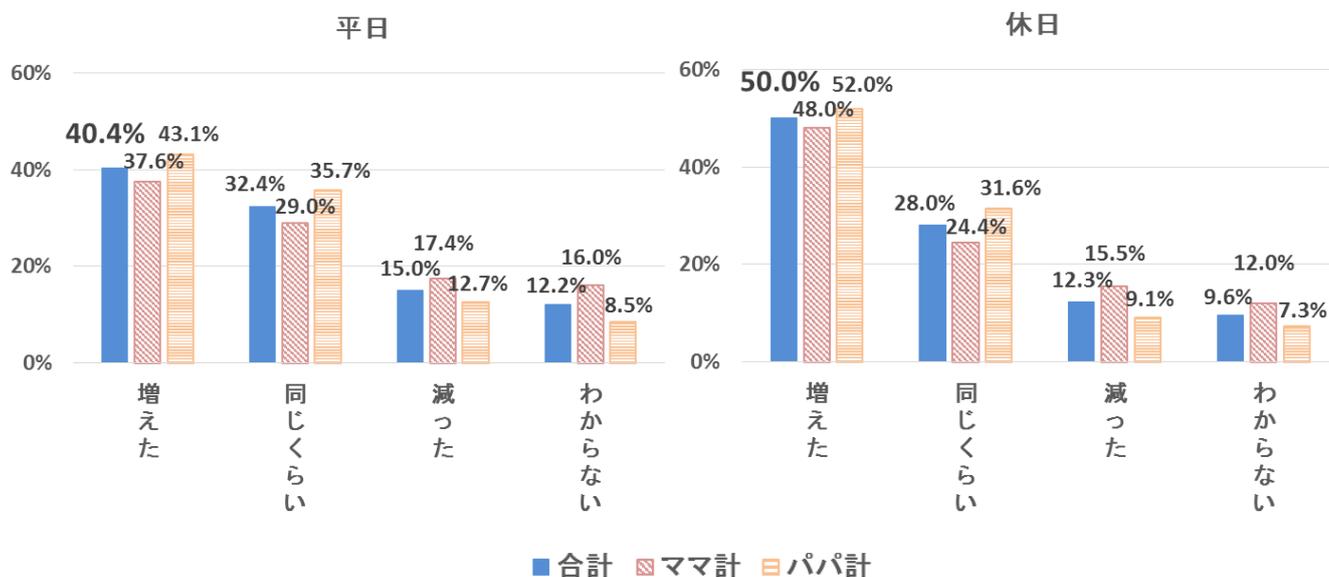
子どもと一緒に遊ぶ頻度は、ママが「毎日」(81.9%)、パパは「週に2~3回程度」(42.2%)がトップとなりました。

Q. あなたの子ども時代と比べて、母親が子どもと遊ぶ時間は増えたと思いますか。平日・休日でそれぞれお答えください。



子ども時代と比べて、ママが子どもと遊ぶ時間は大きな変化が見られず、平日・休日とも「同じくらい」が約4割で、最も多くなりました。昨今、働くママが増加している一方で、忙しい中でも子どもと遊ぶ時間を大切にしていると推測できます。

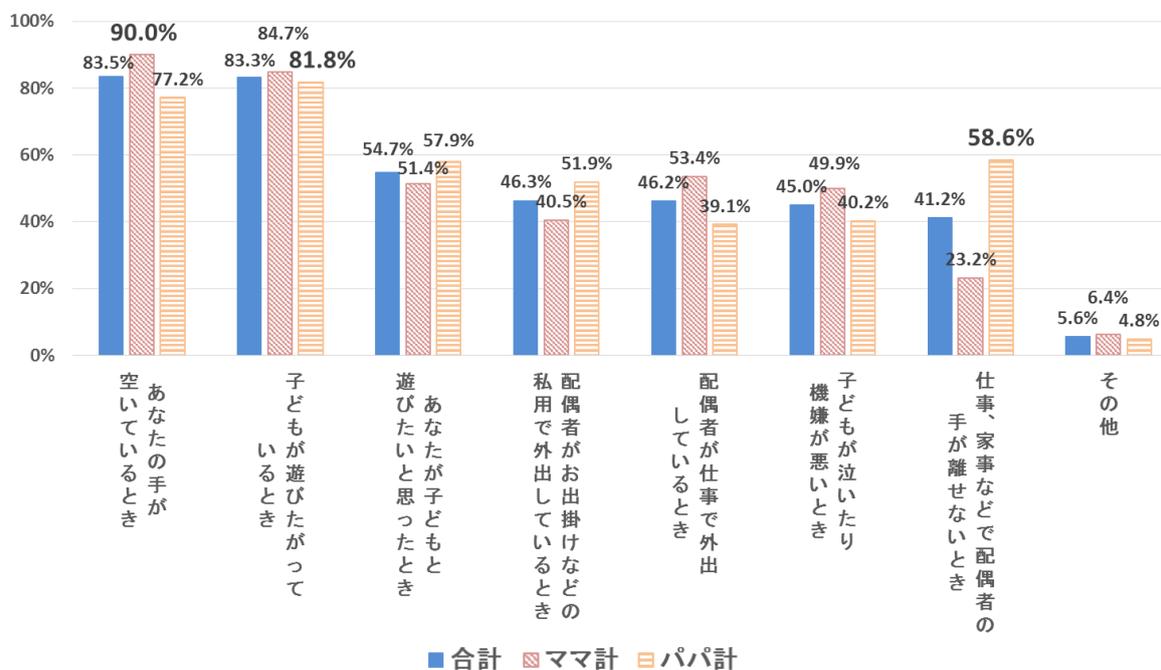
Q. あなたの子ども時代と比べて、父親が子どもと遊ぶ時間は増えたと思いますか。平日・休日でそれぞれお答えください。



一方、子ども時代と比べて、パパが子どもと遊ぶ時間は増加傾向がみられ、特に休日では 50.0%が「増えた」と回答しました。パパの育児参加機会が増えていることがわかる結果となりました。

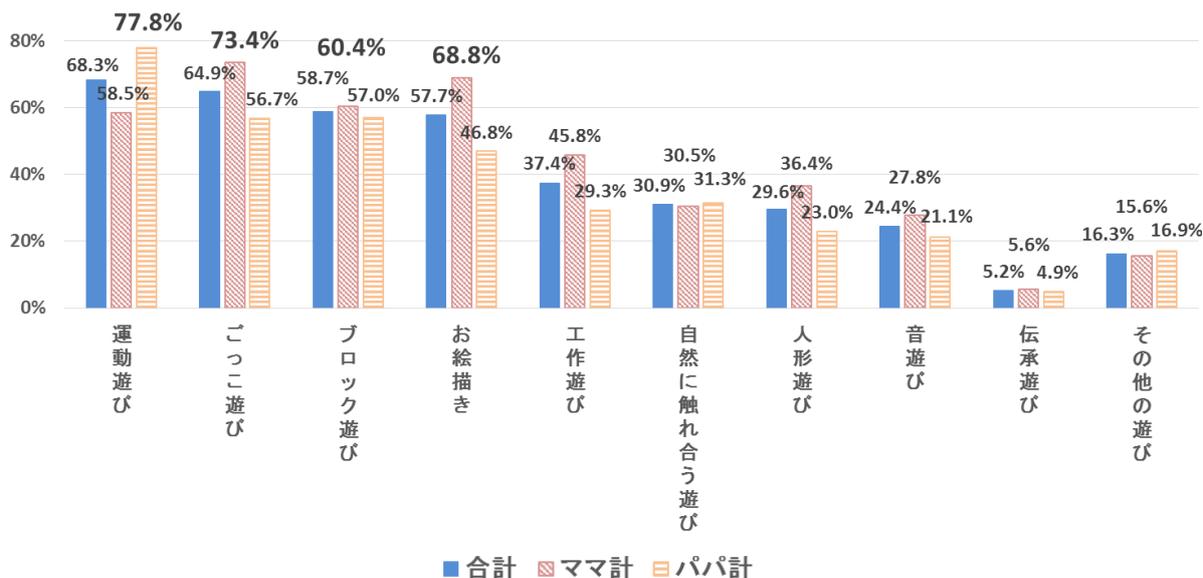
### 子どもと一緒に遊ぶ際の、シチュエーションやあそび方

Q. どのようなときに、子どもと一緒に遊ぶことがありますか。



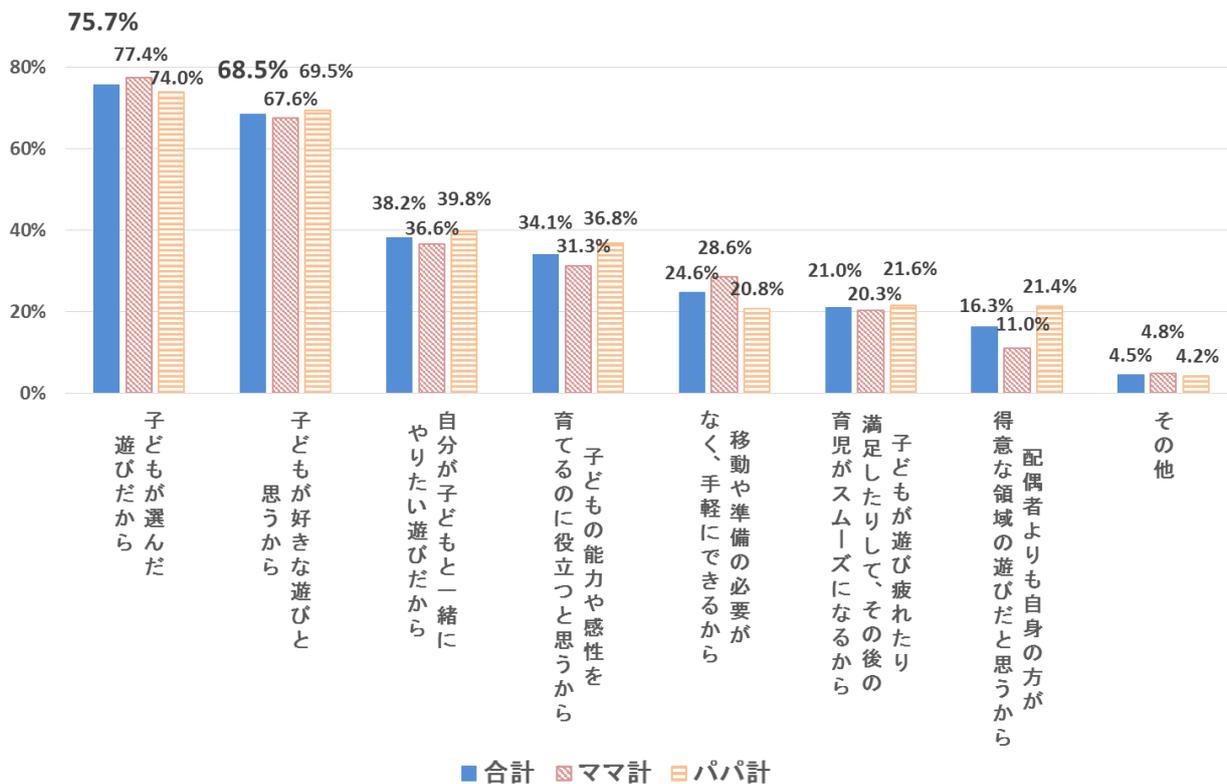
子どもと一緒に遊ぶのは、ママは「手が空いているとき」(90.0%)、パパは「子どもが遊びたがっているとき」(81.8%)がそれぞれトップとなりました。また、「仕事、家事などで配偶者の手が離せないとき」はパパが 58.6%で、ママ(23.2%)より 35.4 ポイント高く、半数以上のパパはママが手を離せないときに子どもと遊んでいる様子が見られました。

Q. あなたがお子様と一緒に遊ぶ際は、どのようなあそびをすることが多いですか。



子どもとのあそびは、ママは「ごっこ遊び」(73.4%)、「お絵描き」(68.8%)、「ブロック遊び」(60.4%)が多く、パパは「運動遊び」(77.8%)がトップでした。「運動遊び」については、パパがママを 19.3 ポイント上回っているものの、「お絵描き」「ごっこ遊び」については、ママがパパをそれぞれ 22.0 ポイント、16.7 ポイント上回りました。

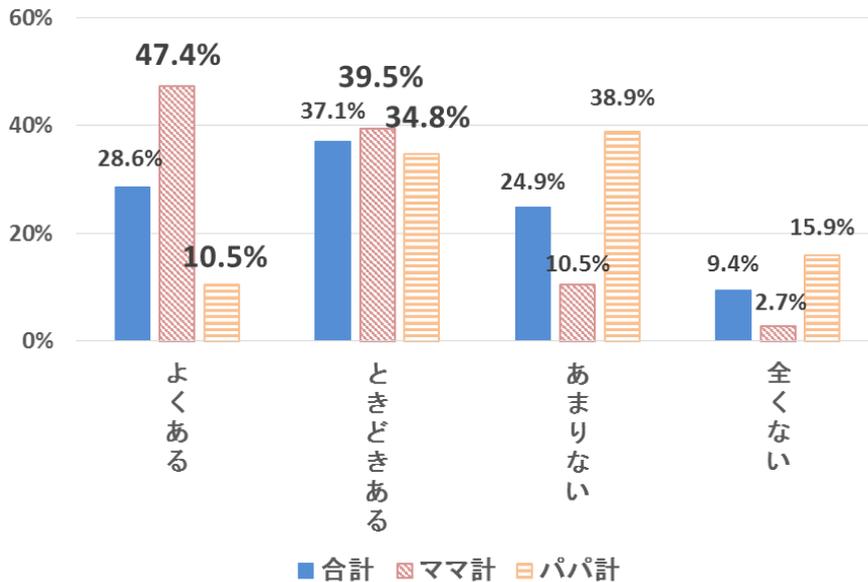
Q. 前問でお答えの遊びをお子様と一緒に遊ぶ理由は何ですか。



パパ・ママとも、「子どもが選んだ遊びだから」「子どもが好きな遊びと思うから」が約7割で上位2項目となりました。子どもの好みや興味を軸にあそびを選んでいることがわかりました。

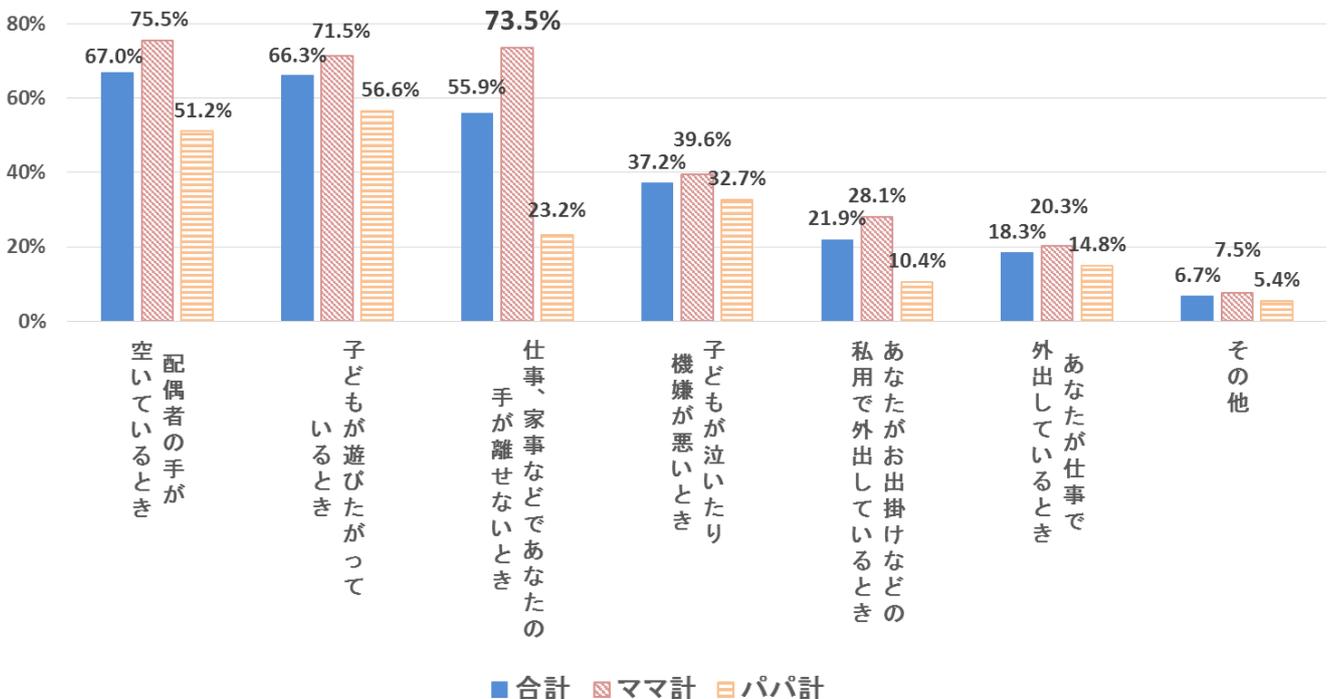
## 「配偶者」と子どもとのあそびに関する意識

Q. あなたは、配偶者に、お子様ともっと遊んでほしいと思うことがありますか。



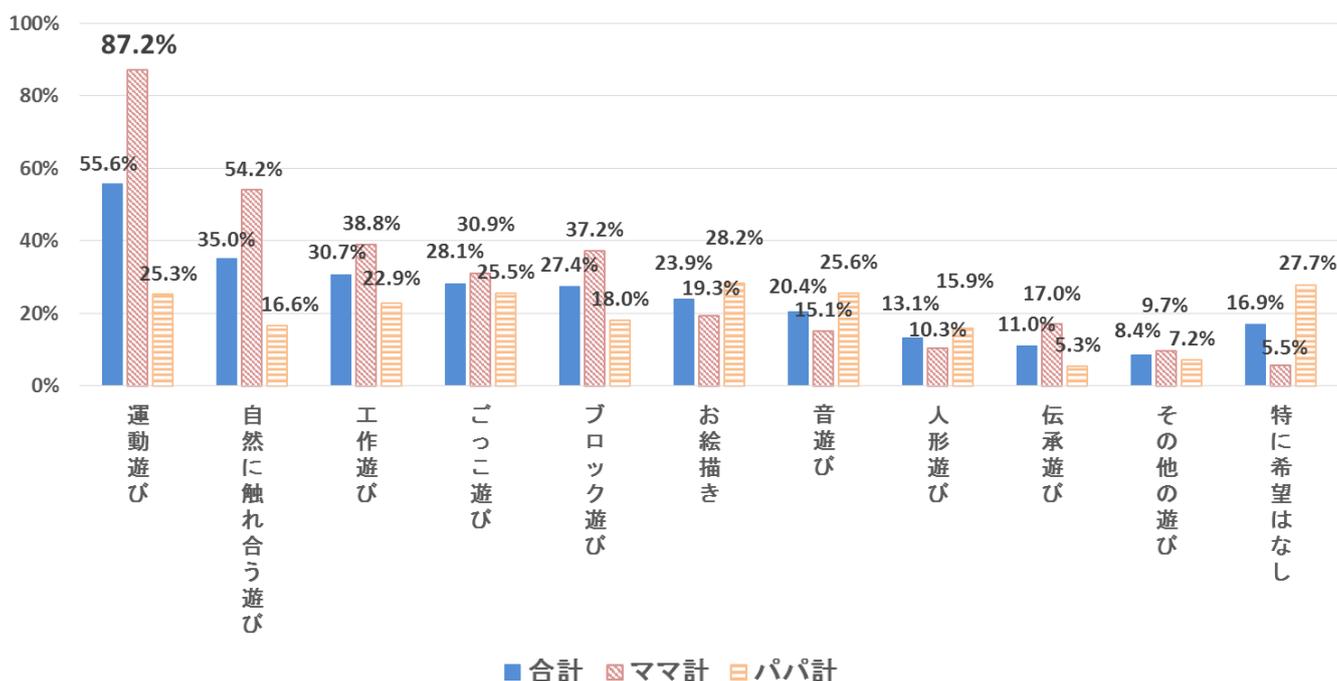
パパに子どもともっと遊んでほしいと回答したママは、「よくある」「ときどきある」を合わせて 86.9%で、パパのママに対する同回答(45.3%)を 41.6 ポイント上回りました。特にママが、パパに対して、「子どもともっと遊んでほしい」という思いを抱えていることがうかがえました。

Q. 配偶者に、お子様ともっと遊んでほしいと思うのは、特にどのようなときですか。



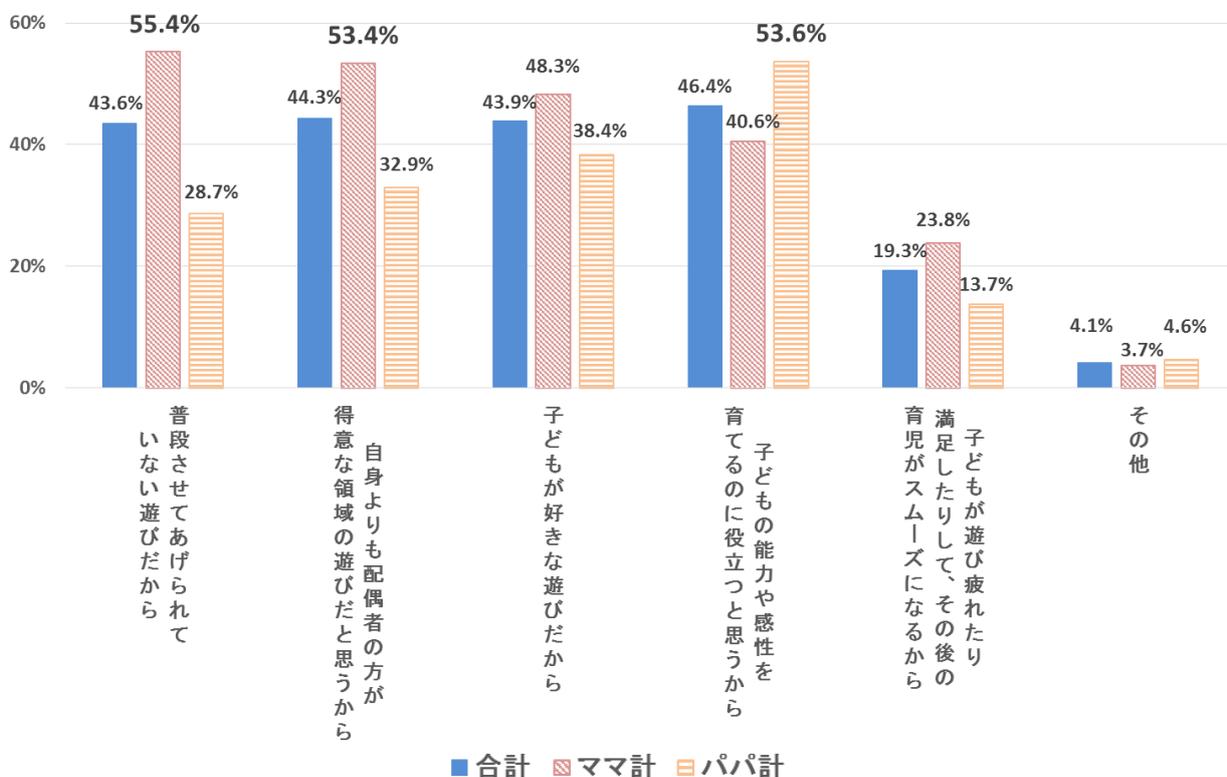
ママが配偶者にもっと子どもと遊んでほしいと思うタイミングは、「仕事、家事などで手が離せないとき」が 73.5%となりました。パパが子どもと遊ぶときを問う質問では、「仕事、家事などで配偶者の手が離せないとき」の回答は 58.6%となっており、ママの希望とパパの実態に 14.9 ポイントの開きが見られました。

Q. あなたは、配偶者に、特にどんな遊びをお子様としてほしいと思いますか。



ママがパパに求めるあそびは、「運動遊び」(87.2%)が最も多く、次いで「自然と触れ合う遊び」(54.2%)となりました。

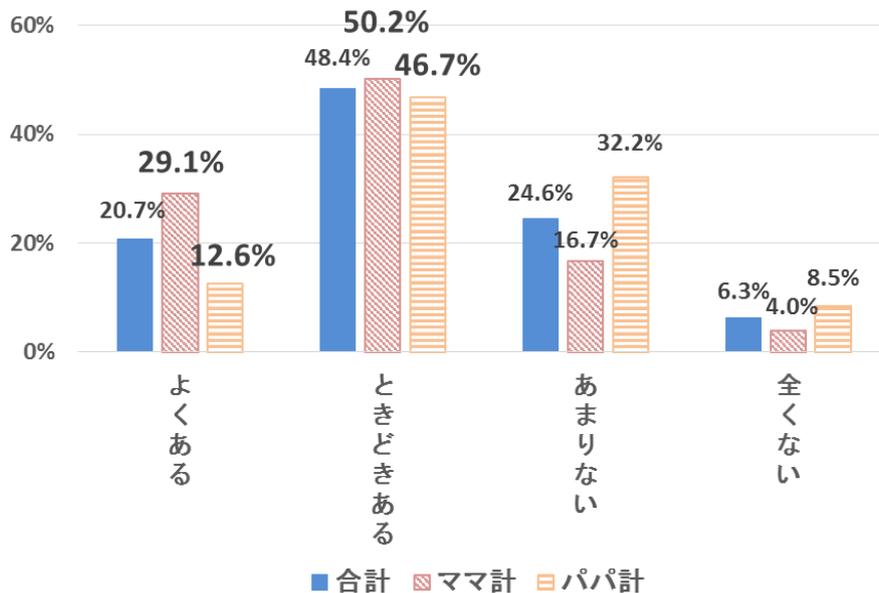
Q. 前問でお答えの、配偶者にお子様としてほしい遊びを選ぶ理由は何ですか。



ママがパパに希望するあそびの理由は、「普段させてあげられていない遊びだから」(55.4%)、次いで「自身よりも配偶者の方が得意な領域の遊びだと思うから」(53.4%)が過半数を占めました。一方、パパは「子どもの能力や感性を育てるのに役立つと思うから」(53.6%)がトップでした。

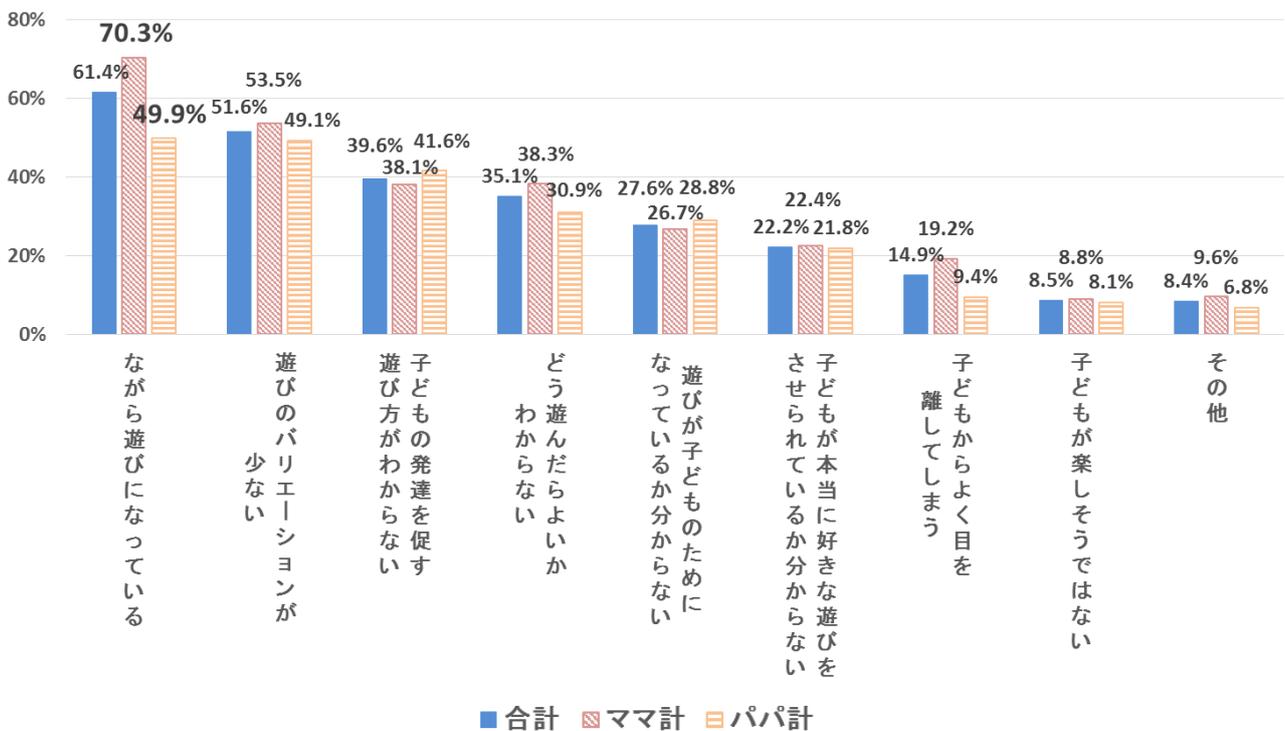
## 子どもと一緒に遊ぶことについての悩み

Q. あなたは、お子様との遊びや遊び方で悩むことはありますか。



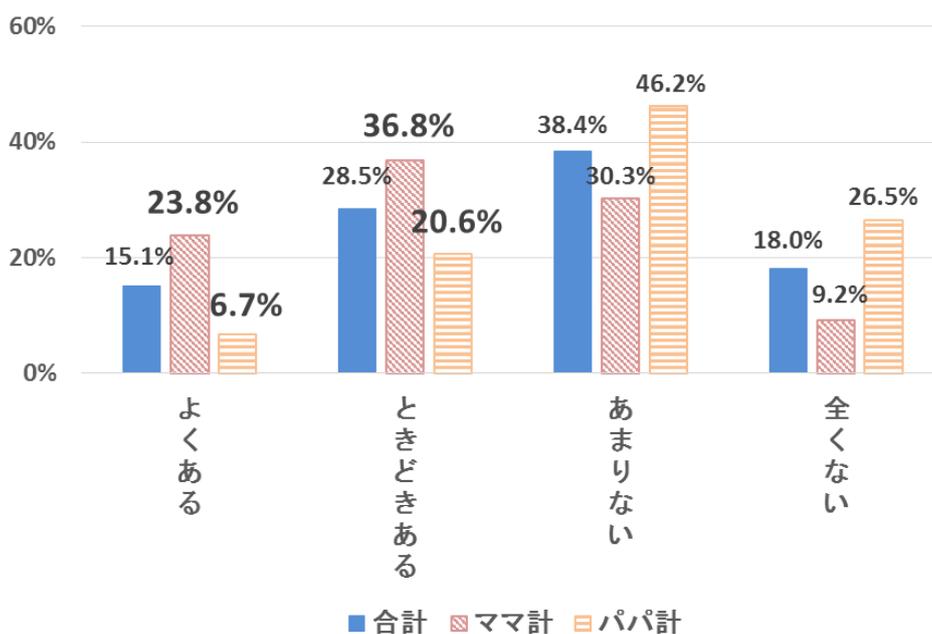
子どもとのあそびに悩むことが「よくある」「ときどきある」と答えたママは79.3%にのぼり、パパの59.3%よりも20ポイント多くなりました。

Q. どのような悩みや困りごとがありますか。



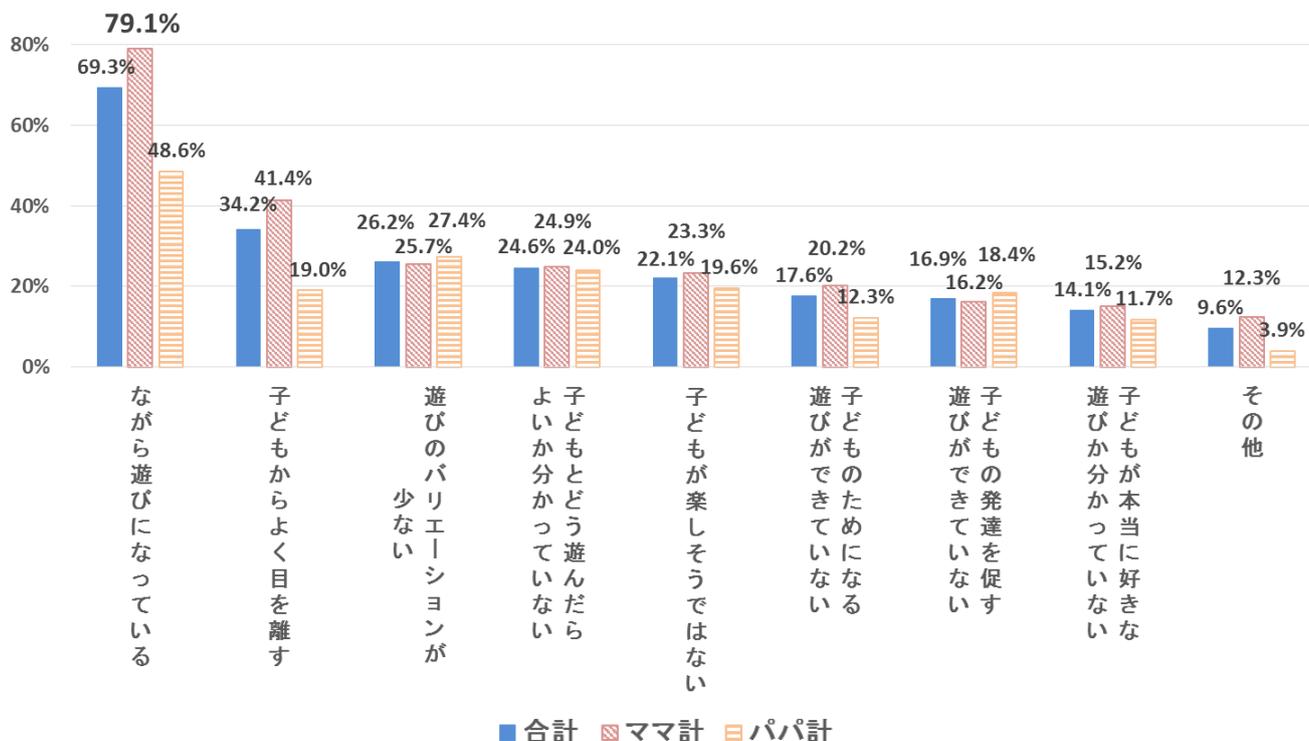
パパ・ママともに「ながら遊びになっている」が最も多く、ママは70.3%、パパは49.9%となりました。全体におけるママの55.7%・パパの29.6%となり、両者で26.1ポイントの差が見られ、ながら遊びの悩みを抱える親は、ママの方が多いことがわかりました。また、「遊びのバリエーションが少ない」「子どもの発達を促す遊び方がわからない」と答えたパパ・ママの割合も、それぞれ約50%・約40%にのぼり、子どもとのあそび方に悩んでいる実態もわかりました。

Q. あなたは、あなたの配偶者が子どもと一緒に遊ぶとき、配偶者の遊び方に不満を感じることはありますか。



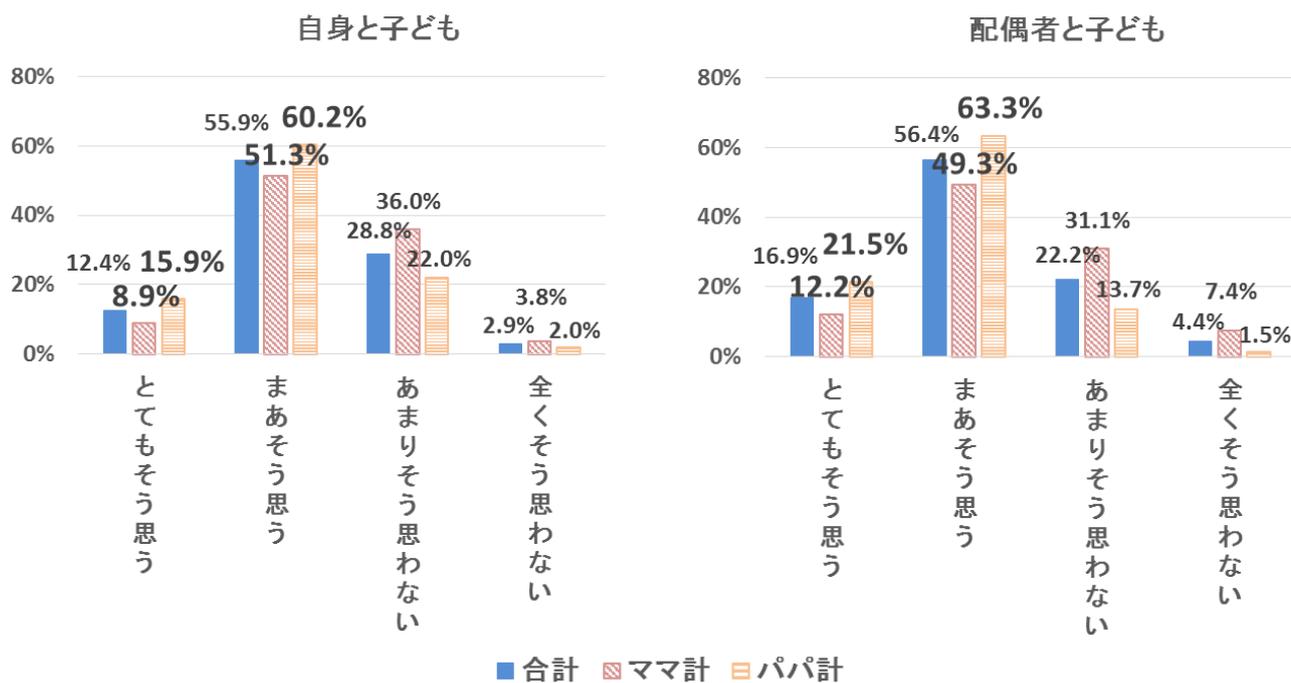
パパの子どもとのあそび方に不満を感じるママは、「よくある」「ときどきある」合わせて 60.6%で、過半数が不満を感じており、ママと子どもとのあそび方に不満を感じるパパ(27.3%)と比べ、33.3ポイント上回りました。

Q. どのようなことに、不満を感じますか。



パパ・ママともに「ながら遊びになっている」が最も多く、ママ全体では、47.9%がパパのながら遊びに不満を感じている結果となりました。一方、自身のながら遊びについて悩みを抱えるパパは 29.6%で、18.3ポイントの意識の差が見られました。

Q. あなたの家庭では、子どもとの遊びに満足していますか。



パパ・ママとも、約 7 割が子どもとのあそびの満足度について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答しました。また、“自身と子どものあそび”と“配偶者と子どものあそび”のそれぞれについての満足度は、配偶者と子どものあそびの方が全てのグループで上回っており、ママは1.3ポイント、パパは8.7ポイント多くなりました。配偶者の子どもとのあそびに不満を抱える機会もあるものの、基本的には、お互いにそれぞれ満足している様子が見られました。

## 【 ボーネルンドのあそび環境づくり事例 】

### ● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

当社では、子どもたちが楽しく遊びながら多様な体の動かし方を身に付けることができるあそび場「キドキド」の開発・運営を 2004 年から行っています。キドキドは、発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、たくさんのおあそびの見本を示して子どもたちのあらゆる体の動きを引き出し、親子のおあそびをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。また、キドキドのノウハウは、自治体の子育て支援センターにも活用されています。



### ● ボーネルンドのあそび環境づくり事例①：ボーネルンド プレイヴィル 安満遺跡公園（大阪府高槻市）

大阪府高槻市は、子育て支援施設・医療機関が整い、子育てへのサポートも手厚い自治体として知られています。同市は、弥生時代の遺跡を中心とした広大な緑地を「安満遺跡公園」として、「市民とともに育てつづける公園」をコンセプトに整備。これに伴い、市と当社が公園内にあそび場を協働開発し、「ボーネルンド プレイヴィル 安満遺跡公園」を今年 3 月にオープンしました。子ども同士が集って交流しながら、思う存分身体を動かして遊んだり、表現あそびなど多様なあそびを通して成長できるあそび環境を創出。公園の理想的なあり方を目指しました。



### ● ボーネルンドのあそび環境づくり事例②：としまえん ASOBRAVO！（東京都練馬区）

年間来場者数が 100 万人を超える遊園地「としまえん」では、低年齢の子ども連れも楽しめるよう施設の拡充を行っており、雨の日やファミリー層の集客、さらに遠足などの平日の集団利用にも対応できる施設として、当社と協業し屋内あそび場「アソブラボ」を昨年 11 月にオープンしました。最大の特長は、1000 m<sup>2</sup>の広さを活かして、子どもが室内でも存分に体を動かせるように設計したアクティブエリアです。全身を使って走る、跳ぶ、回るなど自分の限界に挑戦できるあそびを揃え、また遊具の設置位置を工夫し、動線を広く取ることで、「集団あそび」が生まれやすい環境をつくりました



### ● 地方自治体との協業によるあそび場プロデュース

ボーネルンドが提供するあそび環境は、子どもののびのびとしたあそびや、人々のコミュニケーションを生むことから、地域活性化を目指す自治体から注目されています。当社では、こうした自治体と協業してあそび環境を作ることを、精力的に行っています。これらの施設には、キドキドの開発・運営の中で培われた、子どもが自身の成長に繋がるあそびを心から楽しめる、道具や仕掛けのノウハウが集約されています。



## 【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 78 ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千ヶ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国 21 ヶ所、年間約 277 万人、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の屋内あそび場を含めると全国約 30 ヶ所、年間 350 万人以上の親子が訪れています。

### 【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報室  
担当：村上

TEL：03-5785-0860、080-5901-3591

e-mail：public-relations@bornelund.co.jp

### 【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーネルンド

TEL：0120-358-518(月～金 10:00～17:00)